

講演演題：『 今、注目される歯科疾患の重要性 』

東京科学大学 大学院医歯学総合研究科
歯科公衆衛生学分野
相田潤



講演抄録

過去 10 年ほどの間に、国際的に歯科口腔の健康の重要性の認識が高まっています。2019 年には医学誌 **Lancet** で 196 年の歴史の中で初めてとなる口腔保健の特集号が出版され、2021 年には世界保健機関（WHO）の第 74 回世界保健総会で口腔保健に関する歴史的な決議が承認され、それを受けて世界的な口腔保健戦略も出されています。このように歯科口腔の重要性の認識が高まった理由として、口腔疾患の有病率の高さや健康格差の大きさ、口腔の健康が全身の健康に影響することなどがデータに基づいて認識されるようになってきたことが挙げられます。

特に健康格差に関しては、健康寿命と並んで国の健康政策である「健康日本 21（第三次）」の目標に設定されるなど、注目が集まっています。学校保健においては、子どもの貧困率の高さ、特にひとり親家庭における貧困率の高さは健康格差に密接に関係していると考えられます。

さらに、子どもの頃の口腔の健康は成人・高齢期の健康にも影響を与えることが分かってきました。子どもの頃にむし歯が予防されていれば、高齢者になった時に歯の数が多く維持され、それが全身の健康に良い影響を与えるなど、子どもの時の歯科保健対策は、子どもの歯の問題だけでなく、将来の全身の健康にも影響を及ぼす重要な問題であると認識されるようになっています。

生涯にわたって口腔の健康を維持し、全身の健康増進につなげていくためには、そして歯科疾患の健康格差を縮小するにはどうすればよいのでしょうか。データに基づき、最新の知見を解説していきます。

1. **World Health Assembly Resolution paves the way for better oral health care**
[<https://www.who.int/news/item/27-05-2021-world-health-assembly-resolution-paves-the-way-for-better-oral-health-care>]
2. **第 74 回 WHO 総会議決書を踏まえた口腔衛生学会の提言**
[http://www.kokuhoken.or.jp/jsdh/statement/file/statement_202109.pdf]

略歴

2003 年 北海道大学歯学部卒業

2004 年 国立保健医療科学院専門課程修了

2007 年 北海道大学大学院歯学研究科博士課程修了

2007 年～2011 年 東北大学大学院歯学研究科助教

2010 年～2011 年 University College London 客員研究員

2011 年～2020 年 東北大学大学院歯学研究科准教授

2012 年～2018 年 宮城県保健福祉部 参与（歯科医療保健政策担当）兼務

2014 年～2020 年 東北大学大学院歯学研究科臨床疫学統計支援室室長

2020 年～21 年 東北大学大学院歯学研究科歯学イノベーションリエゾンセンター地域展開部門教授（クロスアポイントメント）

2021 年～ 東北大学特任教授（客員）

2020 年～2024 年 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科健康推進歯学分野教授

2024 年～大学統合により東京科学大学大学院医歯学総合研究科歯科公衆衛生学分野教授

日本老年学的評価研究（JAGES プロジェクト）コアメンバー、口腔の健康格差の研究と政策の国際センターコアメンバー、日本口腔衛生学会フッ化物応用委員会委員長などを務め、健康格差とその原因や解消方法の研究を中心に、口腔の健康と全身の健康や、東日本大震災と健康の社会的決定要因の変化と健康の研究などを行っている。